

労働図書館企画展示

日本の職業変遷史

【後期】現代と未来

労働図書館企画展示

日本の職業変遷史 【後期】現代～未来

戦後、様々な分野で新しい職業が生まれています。その変遷を垣間見ることができ
るのが「職業辞典」「職業ハンドブック」などであり、数年を経ずに新たな編集を行
わざるを得ないのがわかります。それに伴い、自分の適性職業を知る方法として
「OHBYカード」も誕生しました。

もう一方で、戦後の人々が未来について語るものには、“機械化による産業の変化”
に期待する様子が見てとれます。しかし、コンピュータによるIoT化（※）、AI化
（※）の発達で、社会環境の変化が予測され、“人工知能が人間の知能を超える年”
（シンギュラリティー（※））は、2045年と言われていますが、2015年以降刊行の
図書によると、もっと早くその時は到達しそうです。

その意味で、これからの職業を“予測”することは難しく、職業の形は急速に変貌
し続けるでしょう。消えていく職業、新しく生まれる職業、それらを私たちは注目し
ていたいと思います。

「日本の職業変遷史」後期の展示では、現代から未来にいたる展望について、労働
図書館が所蔵する資料よりご紹介いたします。

2018年10月

■後期：2018年10月9日（火）～ 2019年1月31日（木）

■場所：独立行政法人 労働政策研究・研修機構 労働図書館 閲覧室

用語解説

IoT [Internet of Things]

モノのインターネットと呼ばれる。インターネットは、パソコンやスマートフォン（スマホ）などあらゆるデバイスに IP アドレス（ネットワーク上の住所）を与えてネットワークで情報を共有するが、IoT では、これらをさらに拡張して、あらゆるモノに IP アドレスを付与して、膨大な情報を共有する。以前、ユビキタスといわれたものに近いイメージだが、情報端末だけでなくあらゆるモノを情報化するのが特徴だ。例えば、車に IP アドレスを付与するだけでなく、タイヤを情報化することで路面の情報を収集でき、ワイパーを情報化することで天候の情報を共有できる。IoT で収集した大量の情報をビッグデータ技術で解析することで、より快適で効率的な社会を構築できるようになる。便利な一方で課題も指摘されている。買い物履歴、病歴、行動履歴、などの個人情報を利用されるからだ。なかには悪用されるケースも出てくるだろう。IoT の普及推進とともに個人情報を流出・悪用を防ぐ制度づくりも必要だ。→ビッグデータ解析 【『現代用語の基礎知識』2018 年版「情報・通信」の「情報技術」p.601 より。】

人工知能 (AI / エーアイ) [Artificial Intelligence]

コンピュータを用いて人間の脳が持つ知能や機能を実現させようというもの。1956 年に、アメリカのコンピュータ科学者のジョン・マッカーシーが命名。プログラミング言語の開発によって、推論のできるコンピュータを目指した。70 年代には、理論にハードが追いつかず、AI は不可能なのではないかといわれたが、近年になって、コンピュータの高性能化とディープラーニングの進歩によって、AI が急速に発達している。【『現代用語の基礎知識』2018 年版「情報・通信」の「情報技術」p.600 より。】

シンギュラリティー [Singularity] (特異点・技術的特異点)

コンピュータが全人類の知性を超える未来のある時点のこと。この概念は、アメリカの著名な発明家レイ・カーツワイルが、技術に関する未来予測の書『シンギュラリティーは近い：人類が生命を超越するとき』（2005 年）で紹介したことで、世界的に知られるようになった。日本でも 2015 年以降、経済雑誌や新聞でも取り上げられるほどに知名度が高まっている。【『人工知能と経済の未来：2030 年雇用大崩壊』井上智洋著（文春新書 1091）文藝春秋、2016 年 7 月刊の p.40 より】

「コンピュータ・ロボットの知性が全人類の知性を超える未来のある時点のこと」を意味し、「人工知能 (AI) が人間の知能を超える未来。発明家で米グーグル在籍のレイ・カーツワイル (Ray Kurzweil) 氏が 2045 年に到来すると予測した。AI が自ら AI を作り始めたり人の脳をコンピューター上に再現したりすることが考えられる。【『AI 2045』日本経済新聞社編（日経プレミアシリーズ 378）日本経済新聞出版社、2018 年 6 月刊の p.17 より】」

技術的特異点。コンピュータの知能と人間の知能が逆転すること。【『現代用語の基礎知識』2015 年版「外来語・カタカナ語」p.1298 より（『現代用語の基礎知識』には 2015 年版より登場する。2016 年版では「情報・通信」の「情報技術」p.643-644 にも別に立項される。2018 年版では「外来語・カタカナ語」p.1179、「情報技術」p.601 で 28 行にわたる詳しい記述のほかに「文化」の「哲学」p.916、918 にも記述がある。）】

ディープラーニング [Deep Learning]

脳の認知機能を模したニューラルネットワークを利用した人工知能 (AI) 技術。従来のソフトウェア技術が苦手だった画像、動画、音声などの処理を得意とする。例えば、画像検索、動画検索をテキスト検索並みに高速・高精度にしたり、音声認識の精度を高めたりすることができる。ディープといわれるのは、脳の情報処理のように重層化された構造をもっているからだ。入力層と出力層の間に、中間層（隠れ層）を多数配置して情報の震度を増すことで、大量のデータの中から、目指す情報を抽出できる。ビッグデータと連携することで、動画抽出、音声認識、機械翻訳の精度が大幅に向上する。また、向上での品質検査、顔認証機能と合わせたセキュリティ分野、医師の画像診断の補助、会話や表情から人の気分を思いやってくれるロボットなど、あらゆる方向で応用が

広がりつつある。→ニューラルネットワーク、ビッグデータ解析 【『現代用語の基礎知識』2018年版「情報・通信」の「情報技術」p.600より。】

フィンテック [Fin tech]

金融とIT(情報技術)との融合による新しい技術革新。「Finance(金融)」と「Technology(技術)」を合わせた造語。代表的な取引はスマートフォンを使ったクレジット決済や送金サービス、自動家計簿、資産管理サービスなど個人財産管理、投資ポートフォリオの自動作成、自動運用など投資支援、オンライン融資、ネットを介して不特定多数から資金調達するクラウドファンディングなど多岐にわたる。(略) 【『現代用語の基礎知識』2018年版「国際情勢」の「金融」p.253より。】

ベーシックインカム [Basic Income, BI]

政府がすべての国民に対して最低限の生活を送るのに必要な額の現金を、就労や資産の有無にかかわらず無条件で、定期的に支給する最低所得保障(最低生活保障)の構想。 【『現代用語の基礎知識』2018年版「経済」の「現金」p.432より。】

収入の水準に拠らずに全ての人に無条件に、「最低限の生活費を一律に給付する制度を意味します。また、世帯ではなく個人を単位として給付されるという特徴を持ちます。」例えば、毎月7万円のお金が老若男女を問わず国民全員に給付されます。BIを「子ども手当+大人手当」つまり「みんな手当」と考えれば分かりやすいでしょう。 【『人工知能と経済の未来：2030年雇用大崩壊』井上智洋著(文春新書1091)文藝春秋、2016年7月刊のp.217より】

ラダイツ運動 [英 Luddites movement] (『労働用語辞典』日刊労働通信社、2007年5月刊)

イギリスの産業革命の時期に主として繊維工業において労働者が行った機械打ちこわし運動、機械の採用による労働能率の増進、その単純化は手工業者、職人層を没落させ、彼等は機械を本能的に憎悪して機械の破壊を行った。1760年頃に始まり1812年頃最高潮に達した。

ラッドイツ [Luddites] (『新社会学辞典』有斐閣、1993年2月刊)

1810年代、イギリスの繊維産業地帯で一連の機械打ちこわし運動を展開した職人のこと。名称の由来は、正体不明の指導者ネッド・ラッド(Ned Ludd)から。今日でも英語圏では、合理化に対して労働者が激しい反対運動を起こした場合によく用いられる。この種の事件は産業社会成立期にかなり一般的に起こるがかつての労働史研究では社会改良主義の立場であろうと、マルクス主義の立場であろうと、近代的な労働運動と階級意識が形成される以前の、没落を余儀なくされた手工業職人の本能的で、時代錯誤的な行動だと否定的に評価されるのが普通だった。この評価を覆したのがイギリスの歴史家トムスンである。ラッドイツは機械化それ自体よりも、むしろ資本家的な機械の導入に反対したこと、そして組織的な生産手段の破壊は伝統的な争議行為であったことをトムソンは明らかにした。この点も含め、今日のイギリス労働運動史研究では手工業段階から工場制段階への労働運動の伝統の連続性が強調されるようになっている。[文献: Thompson, E. P., The Making of the English Working Class. 1963.]

ラッドイト運動 (『平凡社大百科事典 第15巻』平凡社、1985年6月刊)

『平凡社大百科事典』15巻 p.369では、「ラッドイトうんどう(ラッドイト運動)」として、23行にわたる解説が掲載されている。

展示関係資料一覧（職業解説関係） 【◎印は展示の資料】

◎『職務解説辞典』 労働省監修 長野県職業行政研究会編刊 1950年
【請求記号 R/366.29/sho】

◎『職業辞典 第I部・第II部』2冊 労働省職業安定局編 雇用問題研究会刊 1953年
【請求記号 R/366.29/sho/1, 2】

◎『職業小辞典』 労働省職業安定局編 雇用問題研究会刊 1957年
【請求記号 R/366.29/sho】

『職業辞典』 [改訂版] 労働省職業安定局編 雇用問題研究会刊 1965年
【請求記号 R/366.29/sho】

『職業辞典』 [改訂増補版] 労働省職業安定局編 雇用問題研究会刊 1969年
【請求記号 R/366.29/sho】

『職務解説書職務名索引』 労働省職業安定局編刊 1962年
【請求記号 R/366.29/sho】

『労働省編職業分類：職業分類表』、『労働省編職業分類：職業名索引』 昭和61年版 1987年
【請求記号 R/366.29/rod/86-1・2】

◎『職業ハンドブック』 労働省労働統計調査部編 中山書店 1956年
【請求記号 R/366.29/sho】

『職業ハンドブック：進路選択のための最新仕事百科』[1986年版] 労働省職業安定局監修
雇用職業統合研究所編刊 1986年
【請求記号 R/366.29/sho】

◎『職業ハンドブック』 [増補改訂版] 労働省職業安定局監修 日本労働研究機構編刊 1991年
【請求記号 R/366.29/sho】

◎『この仕事は何をするの? : 労働省編職業分類 職業名解説』 日本労働研究機構編刊 1991年
【請求記号 C60.80/kon】

『職業ハンドブック』 [改訂版] 労働省職業安定局監修 日本労働研究機構編刊 1997年
【請求記号 R/366.29/sho】

『職業ハンドブック』 [CD-ROM版] 労働省職業安定局監修 日本労働研究機構編刊 1998年
【請求記号 R/366.29/sho/98】

◎『What job do you like? : 職業ハンドブック OHBY』 [CD-ROM版] 日本労働研究機構研究所編刊
2002年
【請求記号 R/366.29/sho/02】

『職業レファレンスブック』 日本労働研究機構編刊 2003年
【請求記号 R/366.29/sho】

『職業ガイドブック：キャリアマトリックス準拠』 雇用情報センター [編] 刊 2007年
【請求記号 R/366.29/sho】

展示関係資料一覧 【◎印は展示の資料】

<「職業の未来」に夢を描いて居た時代>

◎『20年後の日本：豊かな国民生活への一つのビジョン』ビジョン研究会編 日本生産性本部 1966年
【請求記号 364/nij】

◎『絵でみる20年後の日本』真鍋博、林雄二郎編著 日本生産性本部 1966年
【請求記号 304/ede】

◎『未来の職業』C.V.ロック著、遠藤惣一訳 鹿島研究所出版会 1972年
【請求記号 366.29/mir】 ※原本は、1968年刊

◎『人間と労働の未来：技術進歩は何をもたらすか』（中公新書 234）中岡哲郎著 中央公論社 1970年
【請求記号 366/nin】

雑誌『月刊労働問題』通巻150号 日本評論社 1970年10月号

【請求記号 Z1/gek-r/70-2】 ※「動き始めた外国人労働者問題」の記事が載る

<「職業の未来」への不安>

◎『ザ・ワーク・レボリューション：労働革命：近未来の構図と適応の条件』G.G.シュウォーツ、
W.ニーカーク著；中村瑞穂、中村真人共訳 ホルト・サウンダース 1985年
【請求記号 366/zaw】 ※原本は、1983年刊

◎『ロボタイゼーション：ロボットは工場を変え、社会を変え、人間を変える。』森清著 技術と人間 1984年
【請求記号 366/rob】

『未来の仕事』ジェイムズ・ロバートソン著 小池和子訳 勁草書房 1988年
【請求記号 366.29/mir】 ※原本は、1985年刊

『これからの職業：あなたを活かす』本多信一著 毎日新聞社 2005年
【請求記号 366.29/kor】

<「職業の未来」これから>

◎『テクノロジーが雇用の75%を奪う』マーティン・フォード著、秋山勝訳 朝日新聞出版 2015年
【請求記号 366/tek】 ※原本は、2009年刊

『コンピュータが仕事を奪う』新井紀子著 日本経済新聞出版社 2010年
【請求記号 366/kon】

◎『機械との競争』エリック・ブリニョルフソン、アンドリュー・マカフィー著 村井章子訳 2013年
【請求記号 504/kik】 ※原本は、2011年刊

『「いいね！」が社会を破壊する』（新潮新書 542）楡 周平著 新潮社 2013年
【請求記号 007.3/iin】

『ワーク・デザイン：これからの<働き方の設計図>』長沼博之著 阪急コミュニケーションズ 2013年
【請求記号 366/wak】

<「職業の未来」に関する図書> 2015年以降刊行の図書

『人間さまお断り：人工知能時代の経済と労働の手引き』ジェリー・カプラン著、安原和見訳

三省堂 2016年

【請求記号 007.1/nin】 ※原本は、2015年刊

『プロフェッショナルの未来：AI、IoT時代に専門家が生き残る方法』リチャード・サスカインド、

ダニエル・サスカインド著 小林啓倫訳 朝日新聞出版 2017年

【請求記号 007.3/iin】 ※原本は、2015年刊

『あと20年でなくなる50の仕事』（青春新書）水野操著 青春出版社 2015年

【請求記号 366.29/ato】

『ロボットの脅威』マーティン・フォード著、松本剛史訳 日本経済新聞出版社 2015年

【請求記号 366.2/rob】 ※原本は、2015年刊

『働きかたの未来』（PHRONESIS 14号）三菱総合研究所編著 ダイヤモンド社 2015年

【請求記号 366.012/hat】

『人工知能と経済の未来：2030年雇用大崩壊』（文春新書）井上智洋著 文藝春秋 2016年

【請求記号 007.3/jin】

『人工知能が変える仕事の未来』野村直之著 日本経済新聞出版社 2016年

【請求記号 007.1/jin】

『誰が日本の労働力を支えるのか？』寺田知太[ほか]著 東洋経済新報社 2017年

【請求記号 366.21/dar】

『シンギュラリティビジネス：AI時代に勝ち残る企業と人の条件』（幻冬舎新書456）齋藤和紀著

幻冬舎 2017年

【請求記号 304/shi】

『2022年、「働き方」はこうなる』（PHPビジネス新書）磯山友幸著 PHP研究所 2017年

【請求記号 366.02/nis】

『「AIで仕事がなくなる」論のウソ』海老原嗣生著 イースト・プレス 2018年

【請求記号 366.2/aid】

『AI 2045』（日経プレミアシリーズ378）日本経済新聞社編 日本経済新聞出版社 2018年

【請求記号 007.3/ain】

『AIで私の仕事はなくなりますか？』（講談社+α新書）田原総一朗著 講談社 2018年

【請求記号 007.1/aid】

『「AI失業」前夜：これから5年、職場で起きること』（PHPビジネス新書）鈴木貴博著

PHP研究所 2018年

【請求記号 366.2/ais】